

## 令和6年度 卒業生アンケート（報告）

### 【調査概要】

- ・ 本学卒業生の就職定着率・離職率及びその原因等に関する調査・分析
- ・ 調査対象者：令和5年3月卒業生：317名  
→ 児教：169名・福祉：9名・食栄：74名・教養：65名
- ・ 調査期間：令和7年2月1日（土）～2月28日（金）
- ・ 調査方法：「Forms」を使用した、Web アンケートによる調査

### 【調査結果】

#### 1. 回答数・回答率について

- ・ 回答数：80件（児教：37件・福祉：1件・食栄：18件・教養：24件）
- ・ 回答率：25.2%（児教：21.9%・福祉：11.1%・食栄：24.3%・教養：36.9%）

#### 2. 回答結果について・・・回答件数（比率）・対前年度比率

##### ①現在の就労状況について

- ・ 新卒時就職先 : 64件（80.0%）・+ 4.6%
- ・ 転職先 : 10件（12.5%）・▲ 3.9%
- ・ フリーランス・個人事業主 : 1件（1.3%）・+ 1.3%
- ・ アルバイト・パート : 1件（1.3%）・▲ 0.3%
- ・ 学生 : 2件（3.8%）・+ 0.5%
- ・ 専業主婦 : 0件（0.0%）・± 0.0%
- ・ 無職 : 2件（3.8%）・+ 3.8%
- ・ その他 : 0件（0.0%）・▲ 3.3%

##### ②新卒時の進路決定理由について・・・回答件数（比率）・対前年度比率

（複数回答可→回答総数 181件）

- ・ 業種・職種 : 44件（24.3%）・▲ 4.0%
- ・ 業務内容 : 21件（11.6%）・+ 2.5%
- ・ 給与・福利厚生 : 40件（22.1%）・+ 5.4%
- ・ 勤務地 : 37件（20.4%）・▲ 1.3%
- ・ 社会貢献 : 5件（2.8%）・+ 0.3%
- ・ 社風・企業文化 : 4件（2.2%）・▲ 0.3%
- ・ スキルアップ : 10件（5.5%）・▲ 2.8%

- ・将来性 : 11 件 ( 6.1%) ・ + 1.9%
- ・特になし : 5 件 ( 2.8%) ・ ▲ 1.4%
- ・その他 : 4 件 ( 2.2%) ・ ▲ 0.3%

③就職活動時の相談相手について・・・回答件数（比率）・対前年度比率  
 （複数回答可→回答総数 146 件）

- ・家族 : 46 件 (31.5%) ・ + 2.3%
- ・友人 : 21 件 (14.4%) ・ ▲ 5.1%
- ・教員 : 33 件 (22.6%) ・ + 4.0%
- ・キャリアセンター : 31 件 (21.2%) ・ + 0.8%
- ・特になし : 15 件 (10.3%) ・ ▲ 0.8%
- ・その他 : 0 件 ( 0.0%) ・ ▲ 0.8%

④就職活動開始時期について・・・回答件数（比率）・対前年度比率

- ・1 年前期（夏休み含む） : 3 件 ( 3.8%) ・ + 0.5%
- ・1 年後期（冬休み・春休み含む） : 22 件 (27.5%) ・ + 17.7%
- ・2 年前期（夏休み含む） : 39 件 (48.8%) ・ ▲ 7.0%
- ・2 年後期（冬休み・春休み含む） : 14 件 (17.5%) ・ ▲ 12.0%
- ・その他 : 2 件 ( 2.5%) ・ + 0.9%

⑤-1 新卒時就職先の離職について・・・回答件数（比率）・対前年度比率

- ・離職済み : 11 件 (13.8%) ・ ▲ 2.6%
- ・継続就業中 : 69 件 (86.3%) ・ + 2.7%

⑤-2 離職理由

- ・企業等都合 : 3 件 (27.3%) ・ + 17.3%
- ・自己都合 : 7 件 (63.6%) ・ ▲ 16.4%
- ・契約満了 : 1 件 ( 9.1%) ・ ▲ 0.9%
- ・解雇 : 0 件 ( 0.0%) ・ ± 0.0%
- ・その他 : 0 件 ( 0.0%) ・ ± 0.0%

⑤-3 離職者の在職期間

- ・1 か月以内 : 0 件 ( 0.0%) ・ ± 0.0%
- ・半年以内 : 6 件 (54.5%) ・ + 44.5%
- ・1 年以内 : 2 件 (18.2%) ・ ▲ 31.8%
- ・1 年以上 : 3 件 (27.3%) ・ ▲ 12.7%

⑤-4 自己都合退職者の退職理由（自由記述・回答数 5 件）

- ・職場の環境があまり良くなかった。
- ・体調面。
- ・人間関係で適応障害なり退職。
- ・夢を追いかけるため。今後やりたいことと違う職種だったから。
- ・入社時の契約と違った。

⑥卒業後の本学との関わりについて・・・回答件数（比率）・対前年度比率

（複数回答可→回答総数 80 件）

- ・教職員との面会 : 25 件 (31.3%) ・ + 1.8%
- ・学校行事で来学 : 6 件 ( 7.5%) ・ + 4.2%
- ・証明書等の手続き : 0 件 ( 0.0%) ・ ▲ 3.3%
- ・電話・メール等での連絡 : 5 件 ( 6.3%) ・ + 1.4%
- ・特になし : 40 件 (50.0%) ・ ▲ 7.4%
- ・その他 : 4 件 ( 5.0%) ・ + 0.4%

⑦本学への希望及び後輩へのアドバイス等（自由記述・回答数 10 件）

- ・就職してからも無理だけはしないで欲しい。
- ・しっかり調べて就職しましたが、働いてみると色んな面にギャップを感じました。自分に合うところを探し 2 回転職をしました。今の職場で正社員として元気に働いています！企業について調べることはもちろん、自分が得意、不得意と思うことを良く知ることが大切だと実感しました。就職活動の時の経験が転職活動にも活かせるので大変だと思いますが頑張ってください！！
- ・実習先訪問などの身だしなみやルールをもう一度見直して欲しいです。
- ・実際に園見学に行き、園の特徴や雰囲気を感じながら就活をしてほしい。  
(株)日本保育サービスの保育園おすすめです。ほぼ全国に系列園あります。
- ・見学では雰囲気を見ましよう。園長の人柄や職員の目線も大切です。
- ・さまざまな仕事があるから免許のところで働くだけでなく、取った免許じゃない、免許はいつでも使えるから持っとくだけでもいいから、自分に合う仕事を見つかることができるから、安心してくださいと伝えたいです。
- ・在学中に内定をいただいた企業で、コールセンターのオペレーターの仕事をしています。クレームが多そう、入社前は資格勉強が大変そうと不安でしたが、今は楽しく働いています！就職活動は慎重に行い、キャンパスライフを思い切り楽しんでください。応援しています！
- ・特にないです。たくさんお世話になりました。
- ・鹿女短の時しんどい時もあると思いますが、鹿女短でしか得られない経験がたく

さんありました。就職してからも、鹿女短の時の楽しかった出来事を思い出して頑張れると思います。だから、今は大変かもしれないけれど、鹿女短生である今を精一杯やりきって欲しいです。

- ・ 進路が見つかっていなくても気軽にキャリアセンターを訪れてほしいです。入学してすぐに就活が始まり大変ですが、早め早めの情報収集や行動をすることで自分に合った就職先が見つかると思います！

#### 【まとめ】

本調査は、令和2年度より開始し本年度が5回目の実施である。今年度の調査も前年度に引き続き、卒業時に登録したメールアドレスに回答フォームを送信する形式で実施した。回答数は80件で前年度より19件増、回答率は+4.1%となり3年連続して改善が見られている。

今年度の調査では、「就職活動開始時期」については前年度調査より早期化の傾向がみられるが、「離職者の在職期間」については短期化の傾向が見られた。

まず「就職活動開始時期」については、「2.④就職活動開始時期について」における「1年後期（冬休み・春休み含む）」が対前年度+17.7%と+に転じ、前年度調査において+であった「2年前期（夏休み含む）」が▲7.0%、「2年後期（冬休み・春休み含む）」が▲12.0%となった。この要因としては、児童教育学科の回答数が対前年度6件減、食物栄養学専攻・教養学科の回答数が対前年度26件増加したことによるものと推察される。調査対象年度の卒業生の内定率は、8月末が12.4%、12月末は63.9%、2月末に90.7%と推移しており、学科専攻によっては学外実習終了後に就職活動が活発化する学生が多いため就職活動終了時期が晩期化する傾向にある。なお、教養学科については、現在、一般企業の就職活動開始時期の早期化が話題になっているが、調査対象の卒業生を見ると「1年前期（夏休み含む）」は対前年度+0.5%、「1年後期（冬休み・春休みを含む）」は+17.7%、「2年前期（夏休み含む）」が▲7.0%、「2年後期（冬休み・春休み含む）」が▲12.0%となり、前年度調査に比較し明らかに早期化の傾向が見受けられはじめており、今後のさらなる活動早期化を注視していく必要がある。

また、「離職者の在職期間」については、「2.⑤-3 離職者の在職期間」の「半年以内の離職」が対前年度+44.5%、「1年以内の離職」が対前年度▲31.8%となっており、在職期間の顕著な短期化が見られた。離職理由は、「人間関係」、「体調面」、「やりたいことではなかった」などがあるが、「2.①現在の就労状況」によると現在はほぼ「転職し、別の企業・事業所等に勤務」であり、転職後の状況は安定しているように推察される。

調査対象の卒業生も、令和4年度、5年度調査に引き続きコロナ禍における就職活動を経

験した世代である。主にオンライン形式の採用活動に加え、対面での採用活動も復活しつつあり、学生もオンラインと対面のハイブリッド型など多様な対応を求められた時期である。今後の課題として、早期離職の抑制を目的とした、就職活動時のミスマッチを可能な限り解消するための取り組み（インターンシップへの参加・企業訪問の推奨等）を継続して推進する必要がある。

以上